



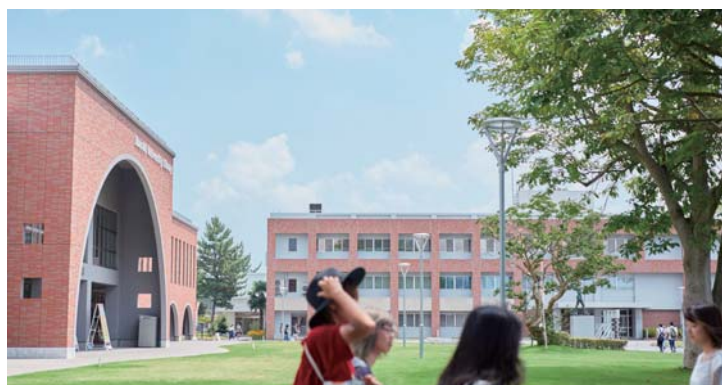
2019年9月発行

茨城大学 広報室

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

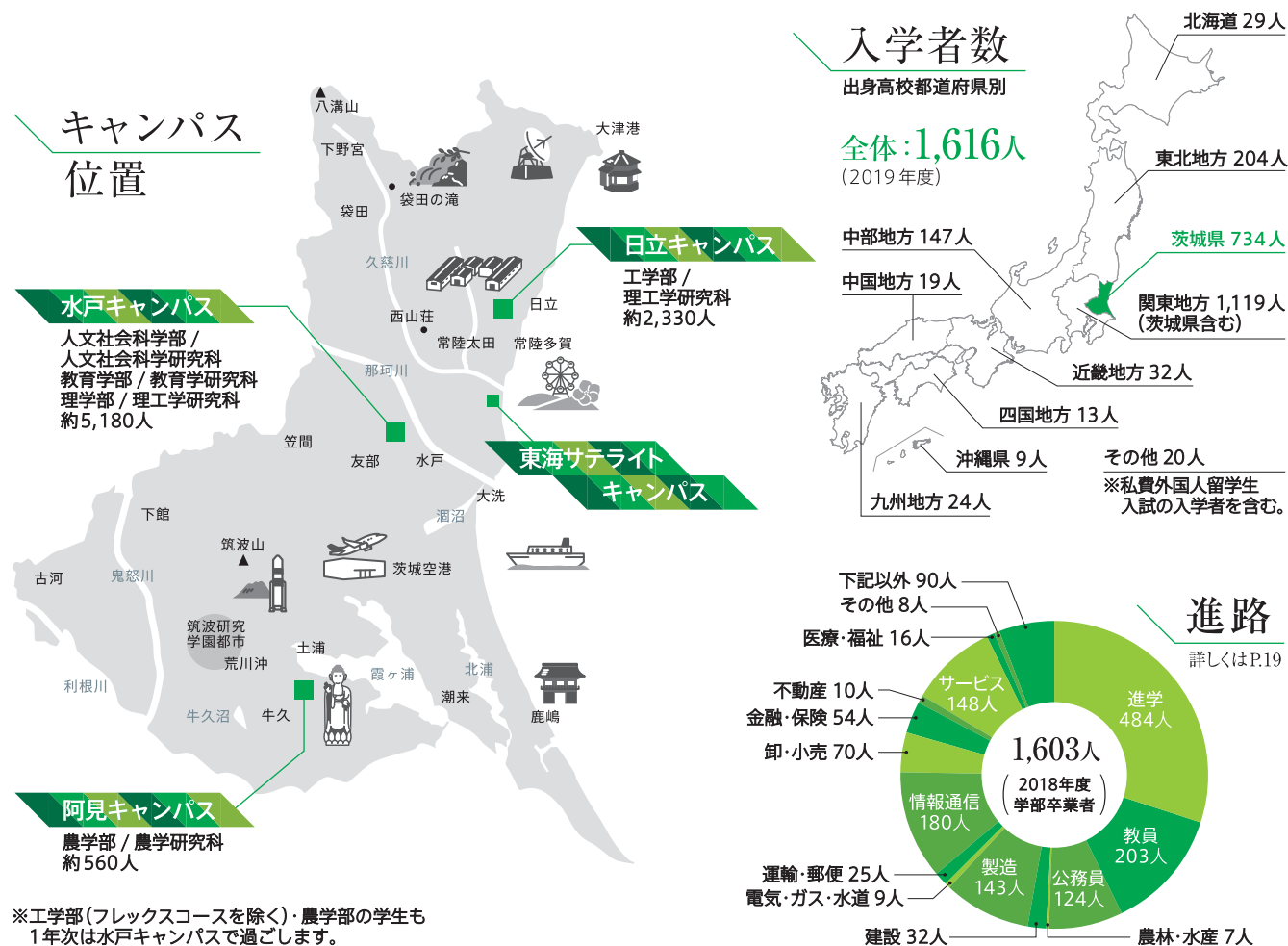
TEL 029-228-8111 (代表)

WEB <https://www.ibaraki.ac.jp/>



知の拠点として 持続可能な社会づくりと地域創生をめざす。

茨城大学は、5学部・大学院4研究科を有する総合大学です。2019年5月には創立70周年を迎え、今後も知の拠点として地域社会と協力しながら、学生がたくましく育つ大学、世界で特色が輝く大学をめざします。



topic 1

効果的な大学教育を追求

主体的な学びを促すカリキュラムと膨大な教学データを学修指導に活かして、これからの社会に必要な「茨城大学型基盤学力」の習得を保证する独自の教育システムが、全国的にも注目されています。



topic 2

世界に輝く多様な研究

地域資源を活かした量子線科学分野、国内外での研究実績に根ざした気候変動分野など、世界に輝く特徴的な研究に取り組んでいます。今後も戦略的な研究支援によりナンバーワン、オンリーワン研究を目指します。



topic 3

連携して地域課題に挑む

自治体や他大学、企業等とネットワークを結び、教育・研究のリソースを活かした地域課題の解決に取り組んでいます。多様なニーズに対応する茨城大学リカレント教育プログラムも本学の大きな特徴です。

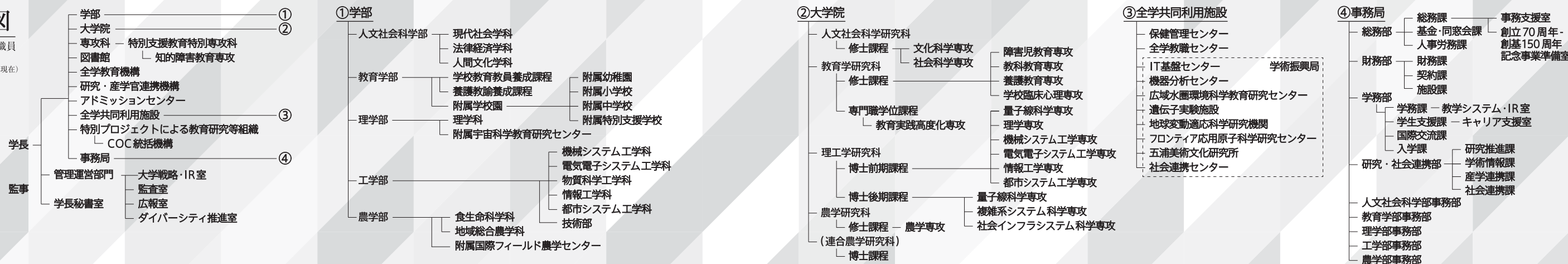


目次

概要・目次	1
特集 2019年、茨城大学は創立70周年	3
学長インタビュー	5
教育	9
学部・大学院・専攻科	11
研究	13
地域連携	15
グローバル交流	17
就職状況	19
財務・ガバナンス	20
キャンパスマップ 水戸	21
キャンパスマップ 日立	23
キャンパスマップ 阿見	25
その他の関連施設	27
キャンパススケジュール	29
茨城大学基金	30

組織図

役員・常勤教職員
914人
(組織は2019年7月現在)



地域とともに70年。 今、新たなあゆみへ。

茨城大学は、1949(昭和24)年5月31日、旧制水戸高等学校、茨城師範学校、茨城青年師範学校、多賀工業専門学校の4校が統合し、新制国立大学として誕生しました。その3年後に、茨城県立農科大学が合流して農学部となり、現在の骨格ができ上がりました。さらに源流をたどれば、1874(明治7)年の拡充師範学校の開校にまで遡ります。

茨城大学の70年間の歩みの中で、9万8千人以上の卒業生・修了生を社会に送り出すとともに、優れた研究成果や地域の課題解決に取り組んだ多くの実績を積み重ねてきました。

今、社会は大きな変革を迎えています。社会の姿が目まぐるしく変わる中でも、国際的なSDGs(持続可能な開発目標)実現の動きやAI等デジタル技術の飛躍的進展など新しい未来への胎動が生まれています。私達は、社会の未来を切り拓くために、「地域創生の知の拠点となる大学、その中で世界的な強み・特色が輝く大学」というビジョンを掲げて、積極的な大学改革を進めてきました。これからは「社会の公器として我が国と地域の持続可能な未来づくりに貢献する」という思いを引き継ぎ、「世界に輝く多様なナンバーワン研究とオンリーワン研究を生み出す活力ある大学」をめざして、個性輝く人材の育成、国際的な研究(連携ネットワークを生かした地域の活性化)など、新しい時代にふさわしい大学運営に果敢に挑戦してまいります。

今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

創立70周年記念式典を開催

2019年5月25日(土) 卒業生など約300人が一堂に会しました。



三村信男 学長
茨城大学がめざす新たなあゆみを表明

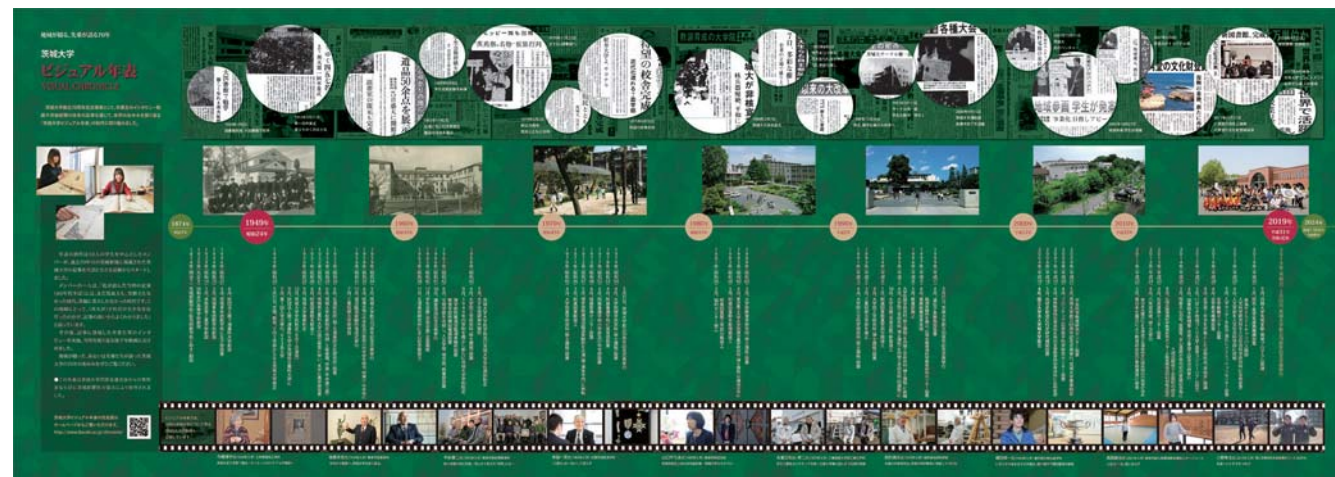
永岡桂子 文部科学副大臣
文部科学大臣の祝辞を代読

大井川和彦 茨城県知事
茨城大学への期待を表明



地域が綴る、先輩が語る70年 茨城大学ビジュアル年表が完成

茨城大学創立70周年記念事業として、卒業生のインタビュー動画や茨城新聞の往年の記事を通じて本学のあゆみを振り返る「茨城大学ビジュアル年表」の制作に取り組みました。完全版はホームページからご覧いただけます。



▶ 学修環境の充実で、学生がたくましく育つ大学を実現

各キャンパスの施設を整備するとともに、学生たちの国内外での主体的な学びを促す仕組みを新設。ハード、ソフトの両面から学修環境を充実させ、学生がたくましく育つ、学生中心の大学の実現に向けて取り組みを進めています。

水戸・日立・阿見 3キャンパスの施設を整備



水戸 福利会館(大学生協)の食堂を大幅拡充! 新たな憩いの場に



日立 正門の景観整備でより開放的なキャンパスに



阿見 食の未来を照らすフードイノベーション棟新設

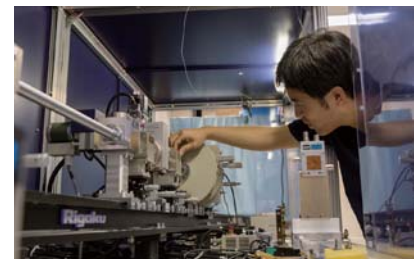
茨大生が一斉にはばたく 新たなチャレンジ「iOP」

学部3年次の夏休み～第3クォーターを、海外研修やインターンシップ、発展学修など主体的な学修活動を促す期間とする新しい仕組み「iOP(internship Off campus Program)」が、2019年秋から本格的に始動します。茨城大学にとって大きなチャレンジです。学生たちの実際の活動の報告は大学ホームページなどで紹介していく予定です。



▶ 多彩な研究の成果を、世界に輝く地域の力に

茨城大学は70年の歴史において、地域資源を最大限に活かした量子線科学分野、国内外での学際的な活動に根ざした気候変動分野など、世界に輝く特長的な研究分野を育ててきました。それらの多彩な成果を、世界に発信する地域の力としてこれからも活かしていきます。



▶ そして未来へ—知の力を創造的な地域づくりに活かすビジョン

創立70周年記念事業として、学問とは何か、茨城大学はどこに向かうのか、といった問いに“学問”のように向き合い、茨城大学のビジョンを構想する“みんなのイバダイ学”プロジェクトを展開。2018年12月に実施したシンポジウムでは、オックスフォード大学の苅谷剛彦教授をゲストに招き、学内外から集まった約150人の方々と大学のあり方について議論を展開しました。その議論をもとに「イバダイ学からの仮説」として発表したビジョンにおいては、知がもつダイナミズムを創造的な地域づくりに活かす駆動役としての「イバダイ」像を掲げました。その実現のため未来へ向かって進みます。



【お問い合わせ】国立大学法人茨城大学 創立70周年-創基150周年記念事業準備室
●TEL/029-228-8811 ●FAX/029-228-8019 ●E-mail/iba-70th@ml.ibaraki.ac.jp ●WEB/https://www.ibaraki.ac.jp/70/



独自の リカレント教育が拓く 茨城大学の新たな役割

社会の転換期における
地域創生の知の拠点として

茨城大学リカレント教育プログラムが2019年4月から本格始動。大学の教育リソースを企業や自治体向けに最適化して提供するユニークなコースの新設が話題となっていますが、その火付け役となったのが茨城県内有数の企業である関彰商事株式会社です。そのねらいや大学・企業・地域のこれらについて、三村信男茨城大学長と関正樹関彰商事社長が語ります。



企業の要望に合わせた 独自の学び直しプログラム

●三村学長：茨城大学では、2019年4月から社会人向けの「リカレント教育プログラム」を本格始動し、オープンコース、専門コース、カスタムコースの3つを設けました。関彰商事株式会社と連携して進めている「セキショウリカレント教育プログラム」は、その中のカスタムコースの第一弾です。もともと関社長には本学の学長アドバイザーをお願いしていて、リカレント教育への取り組み方などについてもいろいろと議論させていただきました。その際に、関社長から「社員の勉強の場として、大学の授業を提供してもらえないか」と言われたことが、私にとってたいへん大きな示唆となりました。そこから、実現に向けての話し合いが急ピッチで進み、開講に漕ぎつけたということです。

●関社長：はい、カスタムコース第一弾として実現いただき、たいへんありがたいことだと思っています。当社は111年という長い歴史の中でトップダウンの慣習がまだ強くあるのですが、それを改めて、社員が自ら考え改善していく雰囲気、習慣を日常的に社内にも生み出したいと考えていました。当社が、次の100年を見据えた成長戦略を考えていたときに、三村学長から、企業に合わせてカスタマイズしてもらえるこの教育プログラムの提案があり、またとない機会だと考え、この取り組みへの参加を決めたわけです。

●三村学長：当初から関社長は、「この会社に勤めたことで人として成長できた」と思える経験を提供する会社でありたい、と話されていました。じつは、その言葉を聞いて、企業や自治体など個々の組織を対象にするプログラムも、その組織に属している人の成長という点で、高い公共性を有していると考えました。

●関社長：コンサルティング会社などが提供するような研修プログラムの場合、ある程度決まった答えがすでにあり、それに向かって学ぶということが一般的だと思います。当社の場合は、さきほど申し上げた通り、結果を出すことよりも、まず社員が考えていく行為、そのプロセス自体を大切にしたいのです。もっとこうした方がいい、こう改善できるんじゃないかと常に問いかける習慣を根付かせるには、大学という学びの場は最適であると感じました。

改めて学ぶことから 芽生えた気持ちが 日常の仕事にも生かされる

●三村学長：2019年前期には、関彰商事の社員の方16名がプログラムを受講しています。たまたま本社に伺ったときにそのうちの2名とお話する機会がありましたが、社会で経験を積んだ後に、もう一度大学の授業を受けるということを非常に新鮮に感じておられるようでしたね。



2019年4月に実施した「セキショウリカレント教育プログラム」の開講式。16人の受講者が受講許可書を受け取った。

「可能であれば、ぜひ後期も受講したい」とおっしゃっていたことが印象的でした。

●関社長：ええ、改めて学ぶということから芽生えた気持ちが、日常の業務の中でも次第に生かされるようになっていくようです。受講者が同僚たちにも勧めるので、受講を希望する社員が増えていると聞いています。

●三村学長：大学としても、これほど反響の大きな取り組みはたいへん貴重です。メディアにも大きく取り上げられ、その直後から複数の会社や自治体から問い合わせを受けました。私自身も、最近、企業訪問をする機会があって社長さんたちとお会いしているのですが、例えば、半導体製造装置で知られる大手企業の社長さんも、「茨城大学のリカレント教育に興味がある」と大きな関心を示しておられました。

●関社長：私はたまたま学長アドバイザーを務めていたので、学長とお話する機会もあって、リカレントプログラムのカスタムコースをスタートすることができました。その良さを私自身も周囲にできる限り伝えていますが、もっともっと多くの人、企業、組織に、大学でこのような機会を得られることを知っていただきたいですね。

●三村学長：我々としても、このリカレントプログラムを有効に展開するため、さらにきちんとした仕組みをつくる必要があると思っています。学修成果を認める修了認定書を出したり、さらに学士課程あるいは大学院へ途中入学して2年間学生として学ぶ機会を提供したりと、一科目を受講する段階から、コースとして修了証が出せるカリキュラムに発展させ、正規の大学教育につなげていくようなことが必要だと考えています。

また、県内の12大学と1高専で組織する「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」でも、リカレント教育についてのあり方を議論していて、産業界や各自治体の首長との話し合いなども進めています。

●関社長：こうした取り組みが、大学が地域でもっと身近な存在になるひとつのきっかけになればと思います。私の目標としては、ゆくゆくは当社の2000人の社員が、茨城大学をはじめとして、さきほどおっしゃった県内の12大学・1高専、あるいは通信制の高校でもいい、どこかで皆が学び直しの機会を持てるようにできたらいいと思っています。つねに社員の自己研鑽を奨励する企業を目指していきたいですね。

講義に社会人の 視点が入ることで 学生や教員にもたらされる 刺激と変化

●三村学長：社会人と学生が一緒に教室で学ぶということが、大学に新たな影響をもたらす面もあります。「セキショウリカレント教育プログラム」の受講者からは、大人数の講義だけではなく、少人数のゼミや討論会などにも出てみたいというご意見もいただいています。これは、今後ぜひ実現させたいと思っていることです。同世代の、ほぼ同質の学生との議論ではなくて、社会を経験しているいろな





視点を持っている方と話すことは、双方向に良い変化をもたらすのではないかと思います。さらに、そういった違う視点を持った受講生がいることで、教員の講義の仕方も確実に変わってくるでしょう。

これまでも、社会に開かれた大学を目指して、キャンパスの中にさまざまな社会人の方に来ていただく取り組みを行ってきましたが、このリカレント教育を進めると、さらに一歩進んで、「講義」の中に社会人の視点が入ってくるという、一段深いところでのインタラクションが生じるという期待があります。そうすれば、人生 100 年時代に必要な教育のあり方が見えてくると思います。

●**関社長**：そうですね。人生 100 年時代になると、職場ではなくて、自分の趣味の世界で素晴らしい出会いがあって、働きながらもそちらの世界で自分の才能が開花していくことだってあります。その人が会社で仕事をあまりしないのかといえば、僕はそうではないと思います。一方が充実して自信を持つようになると、もう一方にもよい影響がもたらされ、さらに充実していくと思います。仕事だけでなく、家庭などでも同じことがいえるのではないのでしょうか。

●**三村学長**：それは、とても面白い話です。私が大学院生のとき、同じことを言われた経験があります。「研究をどのように進めるべきか」と教授に尋ねたら、「テーマをふたつ以上持て」と言われたんです。ひとつだと行きづまってしまうこともあるけれど、もうひとつあればそちらのテーマで前に進むことができる。その結果、もう一方にもよい影響をおよぼしていくということです。

社会の転換期における開かれた大学の役割

●**三村学長**：世の中が大転換期にある今、働く現場にお

いても、変化に対して多様な視点と、広い視野で将来の姿を考える力が必要とされており、その力を身につけるための学びの機会が求められているのだと強く感じます。関社長がリカレントプログラムに対して当初から要望されている内容も、すぐに仕事に結びつく性格というよりは、哲学や歴史、環境、地域の特性といった、教養を深めて視野を広げるようなものでしたね。

●**関社長**：そうです。当社の場合、さらに基本的なこととして、母国語である日本語を改めてきちんと身につけることにつながれば、ということにも期待しています。業務をする上で、お客様の話を聞いて理解し、お客様の求める内容について自分の言葉で話すということ、これは、簡単そうに見えてなかなか難しいことです。当社の社員には、陳腐な表現をせず、その場に合った美しい言葉で表現力豊かにお客様と話せる人間になってほしいという願いがあります。



さらに、リカレントプログラムを受けることにより、社員が会社の中で新たな役割を見出すことにつながるのではという期待もあります。入社してから長期間にわたって活躍し続ける人というのは、やはりごく一部だと思います。途中で挫折をしたり、年を重ねるにつれて力が落ちてきたりということが当然あります。そのときに、学び直す機会を得ることで、自分には別の役割もあると気づくことにつながると思います。喜びや達成感、自分でたくさん商品やサービスを売る以外一たとえば後輩に自分の経験を教えることでも得られる。それによって視野が広がり、周りが見えてくることで、これまで自分ががんばってこられたのも自分の努力によってだけではないとわかってくる。そういう人間が育てば、そのような行動をきちんと評価する上司になっていきます。自ずと会社全体の雰囲気も変化していくと思っています。

●**三村学長**：そういった社会の現場で求められているものを知ることは、大学が変わる大きな契機にもなると思っています。今までの日本の大学のモデルというのは、高校を卒業した、いわばフレッシュな高校卒業生を対象に教えるというものだったわけです。しかし、関社長がおっしゃったように、現代の社会では、仕事の方向を転換したり、指導者としての学びを必要とするような場面がたくさんある。変化が大きい社会の中で、20 代からシニア世代の幅広い層の人たちに向けて、高等教育機関としての大学がどう教育の機会を創出していくか、つまり、大学の新しい役割を真剣に考えるときだと思っています。

●**関社長**：“agree with disagree”という言葉があります。「それぞれの意見が違うことに賛同する」という事です。しかし、単に賛同する以前に、相手の生き方を心から尊重しているべきだと考えます。要は単に相手の意見に賛同するのではなく、相手の生き方を認めたくて意見に耳を傾けるべきだと思います。そういう考えを持つ視点、心を、社員には持ってほしい。そのためには、いろいろなところに勉強に出かけて、さまざまな年齢、境遇の人たちに出会い、それぞれの人が異なる目標や夢を持ち、苦勞をしながらも勉学に勤んでいるということを理解し、互いを尊重する。そういう考え方ができる人材をひとりでも多く増やしたいと、最近とみに感じています。

●**三村学長**：それは、社会の健全さのベースを作るようなことですね。我々も、「茨城大学リカレント教育プログラム」の取り組みをひとつの礎としながら、地域創生の知の拠点となる大学となることを目指してまいります。本日はありがとうございました。



●三村信男(みむら・のぶお)

写真左。茨城大学学長。専門分野は地球環境工学、海岸工学。国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」で第2～5次評価報告書の主執筆者・統括主執筆者を務めた。

●関正樹(せき・まさき)

写真右。関商事株式会社 代表取締役社長。「軸足は地元茨城に中心を置きながら、海外を含め外へ出ることで、様々な情報を入手し、健全なる次世代に向けて更なる成長を目指します。」

関商事株式会社

1908(明治41)年創業、茨城県つくば市に本社を置く総合商社として、さまざまな生活シーンのインフラ・サービスを創造している。売上高約1780億円、社員数約2300人。
●WEB / <https://www.sekisho.co.jp/>

<撮影場所>茨城大学水戸キャンパス図書館本館ライブラリーホール(P.21 水戸キャンパス●)

FOCUS



茨城大学リカレント教育プログラム

社会人の学び直しのニーズに応えるため、2019年度よりスタート。①公開講座・公開授業から1科目単位で誰でも自由に受講できる「オープンコース」、②体系化した科目カテゴリから選択して選び、一定の受講により受講証明が授与される「専門コース」、③企業・団体の要望にあわせて教育プログラムをカスタマイズして提供する「カスタムコース」の3つのコースで構成されています。(詳しい情報はP.16をご覧ください。)

茨城大学の教育

主体的な学びを促すカリキュラムとデータを学修指導に活かして、
これからの社会に必要な茨城大学型基盤学力の習得を保証

茨城大学型基盤学力

Diploma Policy

- 世界の俯瞰的理解
- 専門分野の学力
- 課題解決能力・コミュニケーション力
- 社会人としての姿勢
- 地域活性化志向

茨城大学では「変化の激しい21世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成すること」を教育目標に掲げ、すべての学生が卒業までに身につけるべき5つの「茨城大学型基盤学力」をディプロマ・ポリシー（学位授与要件）として定めています。各カリキュラムは、これらの基盤学力を確実に習得できるよう設計されています。さらに、在学時、卒業時の学生調査、卒業後の追跡調査、企業へのアンケート等によって、在学生及び卒業生のディプロマ・ポリシーの達成度を把握して、授業やカリキュラムの改善に役立てています。また、学生生活の状況も継続的にアンケート調査し、充実した大学生活がおくれるように支援しています。

独自に体系化した“教育の質の保証”で、効果的な大学教育を追求

茨城大学では、学生の目的意識を高め、日々の学修モチベーションの向上を図るために、学生の授業アンケートデータと成績データを総合的に分析し、授業、カリキュラム、学部、大学全体という4つの階層で体系的な教育改善を行っています。この組織的な取り組みは全国的にも注目されています。

入学時に学修目的を学生・教職員間で共有

入学式直後に同じ舞台上、ディプロマ・ポリシーやカリキュラムを理解してもらうための「コミットメント・セレモニー」を開催し、新入生全員と教職員との間で4年間の大学生活の目的を共有しています。「茨城大学コミットメント」は本学の特徴的な教育を表すキーワードです。このキーワードをもとに、WEBやSNSを通じた学内外へ向けた情報発信を行い、ディプロマ・ポリシーへの継続的な意識づけや学生生活へのモチベーション向上を図っています。 [@IBADAI_commit](#)



充実した教学データベースを構築

学生生活や学修状況等について、学生の入学時、各学年次、卒業時、卒業3年後にアンケート調査を行うことで継続的にデータを取得しています。加えて、学生が就職した企業へのアンケート調査結果や、企業等からの助言、学生たちの成績など、膨大なデータを多角的に収集・分析し、充実した教学データベースを構築して本学の教育状況を点検・評価し、教育改善に役立てています。

データの適切な可視化で教育改善の行動を導く

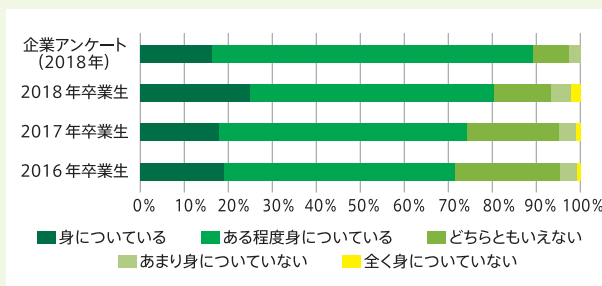
各種調査等で収集した膨大なデータを分析して、その結果を学内の情報ポータルシステムなどを通じて教職員に提供することで、日常の授業やカリキュラム上の課題を見直す具体的な行動へとつなげています。さらに、それらの情報システムを学生のポートフォリオとつなぐことで、より効果的な教育改善を図っています。

効果的なFD・会議による組織的で着実な教育改善

授業、カリキュラム、学部、大学全体という4つの階層による教育改善を体系化するとともに、教育の取り組みのグッドプラクティスや最新の理論・方法を学ぶFD (Faculty Development) や効果的な教員会議を実施することで、エビデンスに基づいた組織的な教育改善を継続的に進めています。

教育効果が着実に高まっています

上記のような取り組みの成果が、継続的な学修達成度の調査からも見えてきています。右は茨城大学型基盤学力のうちのひとつ「課題解決能力」の達成度を卒業生と企業に聞いた結果です。2016年から2018年にかけて学生の主観的な達成度が高まっているだけでなく、卒業生が就職している企業はさらに高い評価をしていることがわかります。



pick up

柔軟な学修計画を可能とする2学期クォーター制 3年次の「iOPクォーター」で長期的・主体的な学びを促進

2学期制と1年間を4つの期間で区切るクォーター制とを合わせた「2学期クォーター制」を導入。じっくり取り組む科目や短期的に集中して学ぶ科目など、授業の性質にあわせて柔軟に学ぶことが可能です。

また、3年次の第3クォーターは「iOP (internship Off-campus Program) クォーター」と名づけ、原則的に必修科目を開講せず※、主体的な学びを促す期間としています。学生たちは海外研修、インターンシップ、発展学修などに取り組み、多様な現場での経験を通じて、授業で身についた5つの茨城大学型基盤学力を統合させ、自分の力へと確実につなげていきます。

※工学部のiOPは3年次夏休みの活動が中心です。大学院進学後1年目に、iOPと同等の学外実習「OFF CLASS PROJECT」があります。

茨城大学



全学共通の特徴的な基盤科目

大学入門ゼミ

主体的な学びや資料検索の方法、レポート作成のポイントなど、高校までとは異なる大学での学修スタイルを学ぶ1年次の必修科目です。

茨城学

茨城が抱える課題について、自治体や地元企業など多様な講師による講義とディスカッションを通して、地域への理解を深めます。

プラクティカル・イングリッシュ

アクティブ・ラーニング形式で実践的な英語力を身につけます。1年次と3年次にはTOEIC受験で習得度を測ります。

ライフデザイン

大学時代に身につけておくべき多様な価値観、社会の常識、マナーなどを学び、自らのキャリアに思いを巡らせます。

授業外の学びや活動も積極的に支援

茨城大学では、サークルやボランティアなど授業外での活動も、茨城大学型基盤学力をさらに高めるものとして積極的に支援をしています。

また経済的な困難や障害といった学生が抱える課題に応え、誰もが前向きに学べるための環境整備を進めています。



課外活動

サークルなどの課外活動をサポートする施設を各キャンパスに設けています。多くの学生が大会などで活躍中です。

経済的な支援

経済的な困難を抱える学生たちも安心した環境で学修に取り組めるよう、学費の免除や各種奨学金のほか、さまざまな支援制度を用意しています。それらの就学支援には、茨城大学基金に寄せられた寄附金も活用しています。

茨城大学学修支度金

経済的な困難を抱える学部新入生向けに一律3万円を給付する制度です。(返済不要・選考あり)

学内ワークスタディ

学生が大学内の業務に従事してもらうことで、職業意識・職業観を育みながら経済的な支援を行うものです。

キャリア支援

カウンセラーによる相談対応やセミナー等の開催を通じて、学生のキャリア形成をサポートします。

グローバル教育

他大学等との国際的なネットワークや留学支援を通じて、学生の海外研修や留学生の学修を支援します。

心身の健康サポート

保健管理センターでは医師や看護師、カウンセラーが心やからだの相談に対応します。

障害のある学生の支援

学生同士による支援(ピアサポート)などを通じて、ひとりひとりのニーズに応じた支援体制を整備しています。

学部

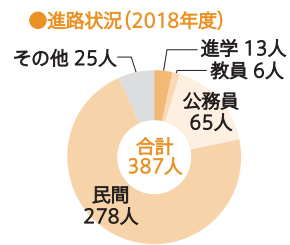
全学のディプロマ・ポリシーに応じて各学部とも目標を掲げ、コースやカリキュラムを充実させています。



人文社会科学部 水戸キャンパス

主専攻分野の「メジャー」に加えて異分野の「サブメジャー」(副専攻)も選ぶ制度により、社会の課題を把握し、解決する高い能力と俯瞰的な視野を育てます。

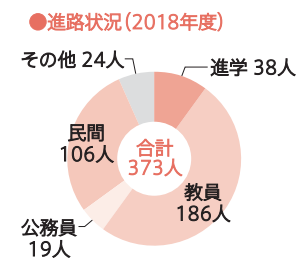
- [現代社会学科] [法律経済学科]
- メディア文化メジャー/国際・地域共創メジャー 法学メジャー/経済学・経営学メジャー
- [人間文化学科]
- 文芸・思想メジャー/歴史・考古学メジャー/心理・人間科学メジャー



教育学部 水戸キャンパス

複雑化する教育問題に対処するため、専門的知識と広い視野を伴う実践的指導力を持った教員を育成。地域と連携し、教育実習以外にも学校現場で学ぶ機会を充実させています。

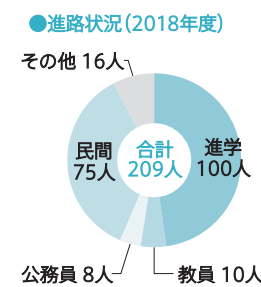
- [学校教育教員養成課程]
- 教育実践科学コース/教科教育コース/特別支援教育コース
- [養護教諭養成課程]



理学部 水戸キャンパス

従来の学科の枠組みを取り払った「1学科6コース制」により、社会のさまざまな分野で活躍できる、高い専門知識と問題解決能力を持った理学のスペシャリストを輩出しています。

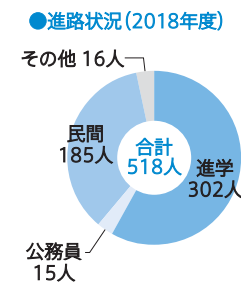
- [理学科]
- 数学・情報数理コース/物理学コース/化学コース/生物科学コース/地球環境科学コース/学際理学コース



工学部 日立キャンパス (1年次(フレックスコースを除く)は水戸キャンパス)

AIやビッグデータなどの情報教育を重視し、大学院を含めた6年一貫の教育を念頭に、新たな社会の基盤づくりを担う高度技術者・研究者を育てます。

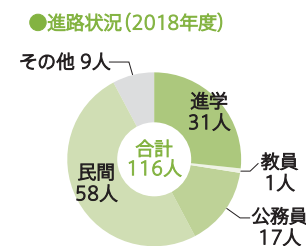
- [機械システム工学科] [電気電子システム工学科]
- [物質科学工学科] [情報工学科] [都市システム工学科]
- [機械システム工学科(フレックスコース)]



農学部 阿見キャンパス (1年次は水戸キャンパス)

食・農業の国際化・高度化が急速に進む中、世界と地域で活躍できる実務型農学系人材の育成をめざし、生産・加工の国際認証などにも対応した新たな農学教育に取り組んでいます。

- [食生命科学科]
- 国際食産業科学コース/バイオサイエンスコース
- [地域総合農学科]
- 農業科学コース/地域共生コース



大学院・専攻科

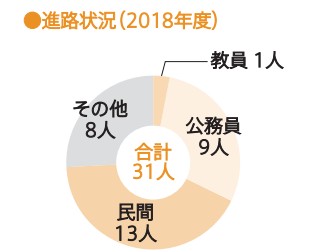
社会をリードする高度な専門職業人や研究者を育てます。



人文社会科学研究科 水戸キャンパス

- 修士課程
- [文化科学専攻] [社会科学専攻]

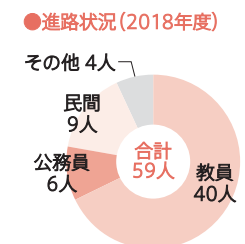
2017年度から社会人向けコースも開設し、茨城県内自治体の職員が地域づくりを実践的に学修・研究しています。



教育学研究科 水戸キャンパス

- 修士課程
- [障害児教育専攻] [教科教育専攻] [養護教育専攻] [学校臨床心理専攻]
- 専門職学位課程
- [教育実践高度化専攻]

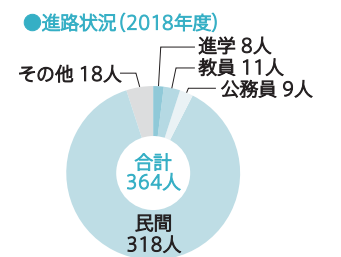
教育実践高度化専攻(教職大学院)学校運営コースでは現職派遣の教員が学び、修了後は各学校でリーダーとして活躍しています。



理工学研究科 水戸キャンパス 日立キャンパス 東海サテライトキャンパス

- 博士前期課程
- [量子線科学専攻] [理学専攻] [機械システム工学専攻]
- [電気電子システム工学専攻] [情報工学専攻] [都市システム工学専攻]
- 博士後期課程
- [量子線科学専攻] [複雑系システム科学専攻] [社会インフラシステム科学専攻]

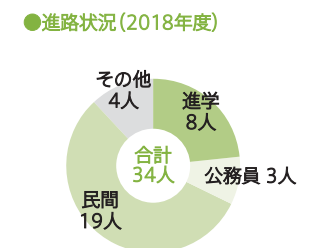
量子線科学専攻はJ-PARCなどの機関と連携し全国的にもユニークな量子線の科学・技術の総合的教育を行っています。



農学研究科 阿見キャンパス

- 修士課程
- [農学専攻]

英語開講の科目だけで修了できるアジア展開農学コースには、アジア各国から留学生が集まっています。



連合農学研究科 阿見キャンパス

- [生物生産科学専攻] [応用生命科学専攻]
- [環境資源共生科学専攻] [農業環境工学専攻]
- [農林共生社会科学専攻]

茨城大学、宇都宮大学、東京農工大学の農学研究科修士課程が連合して、博士課程(3年)の教育・研究にあたる研究科です。

特別支援教育特別専攻科 水戸キャンパス

- [知的障害教育専攻] 特別支援学校教諭一種免許状取得コース
- 特別支援学校教諭専修免許状取得コース

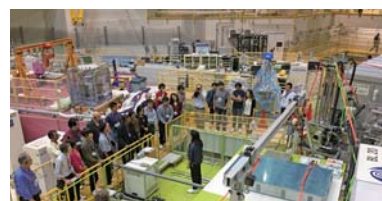
現職教員や教員資格保有者などを対象として、知的障害児の教育を中心とした特別支援教育を担当できる教員を養成しています。

茨城大学の研究

世界に輝く多様なナンバーワン研究・オンリーワン研究を生み出す

茨城大学は70年の歴史において、地域資源を最大限活かした量子線科学分野、国内外での学際的な活動に根ざした気候変動分野など、世界に輝く特徴的な研究分野を育ててきました。Society5.0ともいわれる技術・産業構造の大きな転換を迎えるにあたって、従来の学問領域を超えた新たな知の創出や、地域との連携によるイノベーションに関する大学への期待・要請は高まっています。茨城大学では、2018年に発足した研究・産学官連携機構(iRIC)による戦略的かつきめ細やかな研究支援により、世界に輝く多様なナンバーワン研究・オンリーワン研究を生み出していきます。

特徴的な研究領域



大規模施設と連携した量子線科学のパイオニア研究

茨城大学では、世界有数の大強度陽子加速器施設 J-PARC (茨城県東海村) に隣接する、東海サテライトキャンパスを開設。全国的にもユニークな大学院理工学研究科量子線科学専攻を核として、中性子・X線・ミューオンといった量子線を活かしたイノベーション創出と国際拠点構築をめざし、研究と人材育成を進めています。



アジア各国と連携し気候変動適応研究の実装化を加速

地球変動適応科学研究機関(ICAS)では、分野を超えた研究者が集まり、国内外でのフィールド調査の蓄積のもと、気候変動の適応策の研究と社会実装を進めています。2018年にはベトナム日越大学で気候変動・開発の人材育成に関わり、2019年には茨城県地域気候変動適応センターをICASに開設するなど、国内外の拠点形成が進んでいます。

pick up

地域課題への組織的アプローチ 地域活性化、地域史の研究

原子力発電所がある東海村や中山間地域活性化等の地域課題をテーマに組織的な研究・発信を進めます。また、被災資料のレスキューなどの地域と連携した活動により、地域史研究を推進しています。



教科・領域を横断した教育学研究

総合学習に関する研究、神経・生理学的教育、環境教育等の強みを活かし、教育の現代的課題の解決に寄与する教科・領域横断的な研究に重点をおいています。



直径32mの電波望遠鏡を用いた 第一線の宇宙科学研究

高萩市・日立市に設置されている電波望遠鏡を用いた研究や、次世代ガンマ線天文台の国際計画にも継続的に関わり、国立天文台や他大学との協力のもと、宇宙科学の国際観測・研究ネットワークの重要な一翼を担います。



地域産業イノベーションの展開

地域産業イノベーションに貢献するため、地域の研究機関や企業との連携を維持し、金属材料解析・プロセス開発等工学分野に関する研究を展開します。



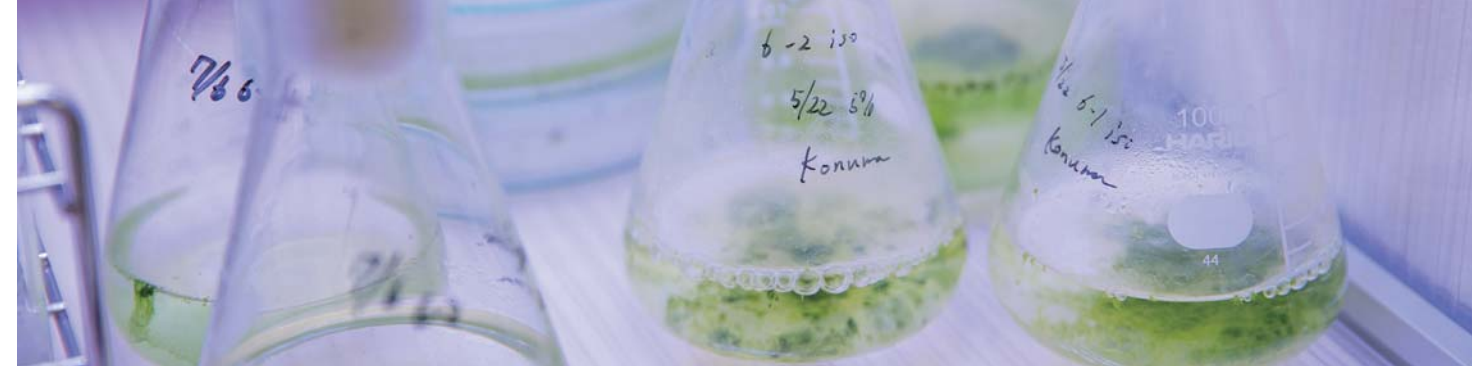
フードイノベーション 安全安心な食を国内外に

2018年にGAPを取得した国際フィールド農学センター、2019年に完成したフードイノベーション棟などを拠点に、農業生産から食品流通、健康科学にまで至る総合的な食生命科学の分野を確立します。



北茨城・五浦を拠点とした 茨城県北の美術・文化の発信

本学が所有する六角堂を含む岡倉天心遺蹟の保存と活用を一層促進し、おもに茨城県北部を拠点とした美術・文化の研究を通じた地域活性化に貢献します。



研究・産学官連携機構による戦略的な研究支援体制の構築

研究・産学官連携機構(iRIC)では、研究支援の専門職(URA、コーディネーター)を配置し、研究戦略および知的財産運用方針の策定や論文投稿、機密管理などに関する研修の企画を実施しています。さらに、他機関と協力した産学連携のためのネットワーク構築といった取り組みを進め、戦略的な研究支援体制を強化しています。

多様な研究支援体制

研究の加速や新たな展開をめざし、資金面やURAによる支援を行う Research Boosterのほか、論文投稿や講演会開催の支援など、さまざまな支援制度を設けています。また、2018年度には、学内の異分野融合研究を促すため、3つのキャンパスを通じたコミュニケーションイベントである「アオゾラ連携プロジェクト」を開催しました。



競争的資金の獲得支援

科学研究費(科研費)やその他の府省庁系資金について、申請に向けた情報収集や申請内容に関するディスカッション、関係各機関との意見調整、申請書作成支援などを行い、研究のための競争的資金の獲得をサポートしています。そうした取り組みが、本学の外部資金獲得や応募数の増加につながっています。



産学連携

学外機関と連携した研究シーズの学外への発信(研究室訪問交流会の開催など)や提案・相談事業を通じて、大学がもつ研究リソースを活かし、企業のニーズを汲んだ共同研究を推進しています。2016年には日立オートモティブシステムズ株式会社と、自動運転技術などに関する包括連携協定を締結し、組織間での共同研究を進めています。



長年にわたって豊かな産業を培ってきた茨城からナンバーワン研究をめざす

茨城県は地理的な条件に恵まれ、農業・工業ともに豊かな実績を誇る地域です。たとえば本学工学部のキャンパスがある日立市は日立製作所創業の地でもあり、100年にわたって培ってきた技術を有する企業、人材が集積しています。本学では、そのような企業や研究者、技術者とともに、地域に根差した世界に輝くナンバーワン研究の創出と、大学の知の財産の循環によるエコシステムの形成をめざします。

check!



研究・産学官連携機構(iRIC)

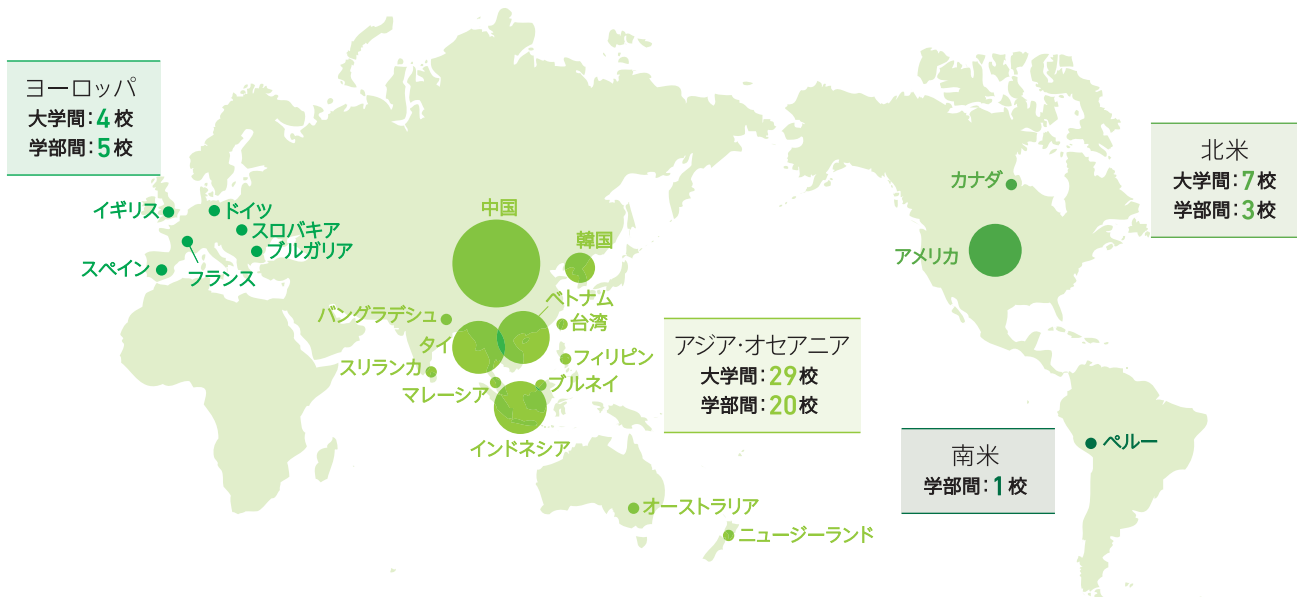
茨城大学の研究体制を司る組織として2018年に開設。産学官連携部門、学術研究部門、研究コンプライアンス部門の3つの部門からなり、研究支援や産学官連携のコーディネートに取り組んでいます。教員との共同研究については、機構のWEBサイトから気軽にお問い合わせください。

- TEL/029-228-8239 ●WEB/ <https://www.irc.ibaraki.ac.jp/>
- MAP/ P.23 日立キャンパス ●

茨城大学のグローバル交流

社会のグローバル化に応える教育・研究の国際化

— 世界に広がるネットワーク型の国際拠点を構築



茨城大学は海外のさまざまな大学・機関と交流協定を締結しています

社会のグローバル化が急速に進む中、大学教育においても海外での学びの機会の拡充や高いコミュニケーション力の育成が不可欠になっています。また、茨城大学が国際的な強みとする研究・教育の取り組みも積極的に世界へ発信し、多様な研究者などとの交流につなげていくことが肝要です。

茨城大学では、海外22の国・地域に位置する69機関と交流協定を締結して、ネットワーク型の国際拠点を構築し、交換留学や共同研究を促進することで、グローバル水準の取り組みを推進していきます。

pick up



日越大学(VJU) 気候変動・開発プログラム

日越大学(VJU)は、日本とベトナムの両政府の合意の下、両国の複数の大学が参加・協力して設立した大学(大学院サステナビリティ学研究科)です。茨城大学は、2018年9月に開講した修士課程の気候変動・開発プログラムの幹事校として、カリキュラム設計、シラバスの整備、海外研修の受け入れなどを担当しています。



AIMS(ASEAN国際学生交流事業)プログラム

AIMS(ASEAN International Mobility for Students)プログラムは、マレーシア、インドネシア、タイの各国政府共同による学生交流支援事業を起源としたアジア発の国際共同教育プログラムです。その後ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本(茨城大学を含む11大学)が加わりました。本学では農学部や理学部で学生の交流を行っています。



海外インターンシップ

国内での企業インターンシップの支援に留まらず、海外での就業体験やインターンシップのプログラムも提供しています。また、専門分野を活かした海外インターンシップとして、現地の大学との連携による学部独自のプログラムも実施しています。



海外へ/海外から グローバルな学びの交流を全力サポート

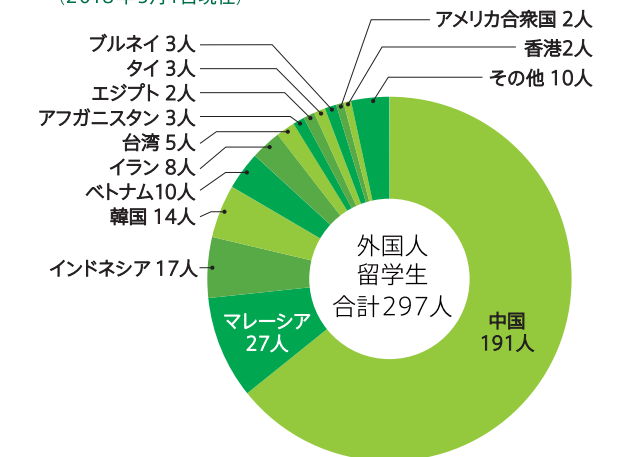
— 世界の俯瞰的理解とコミュニケーション力を育む

留学生の支援

県内の大学、企業、自治体、国際交流団体等と連携しながら、外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学・生活上の指導助言を行っています。学生によるチューター活動も活発です。また、各キャンパスに国際交流会館を設け、留学生本人や家族の居宅として提供するとともに、学生同士の交流を図っています。



●国別外国人留学生数 (2018年5月1日現在)

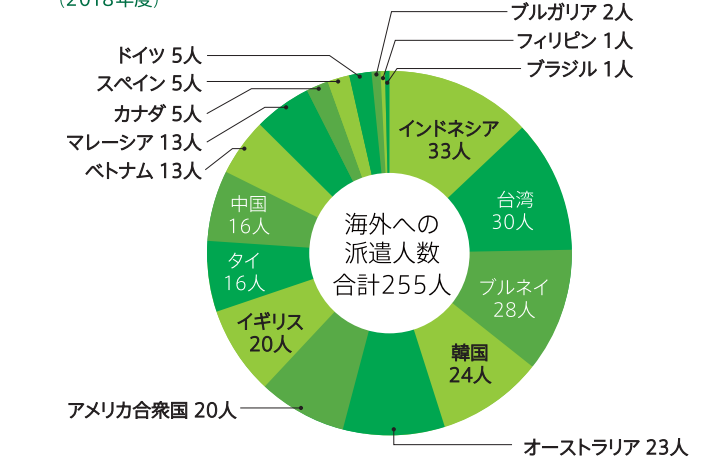


海外研修の支援

学部生や大学院生が語学研修や国際学会での発表に挑戦することを後押しするため、「茨城大学海外派遣学生旅費支援金」「茨城大学大学院生国際会議挑戦プロジェクト」などの経済面のサポートを行っています。毎年これらの制度を利用して、多くの学生が海外へはばたき、大きな成長を遂げています。



●国別海外への派遣人数 (2018年度)



check!



グローバル教育センター

グローバル教育センターでは、茨城大学の留学生の教育・生活支援と、海外留学を希望する学生に対する情報提供・助言を行っています。開かれたセンターとして、交流イベントや相談事業も積極的に展開しています。留学や国際交流に興味がある学生はいつでもお越しください。

●TEL/029-228-8593 ●WEB/http://cge.lae.ibaraki.ac.jp/
●MAP/P.21 水戸キャンパス 共通教育棟

就職状況

多くの卒業生が専門分野を活かして社会で活躍しています。

学部別・業種別進路状況 (2019年5月1日現在)

区分	●学部卒業者										●大学院研究科修了者など※																
	人文学部		教育学部		理学部		工学部		農学部		合計		人文科学研究科		教育学研究科		理工学研究科		農学研究科		合計						
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計				
大学院などへ進学	7	6	23	15	75	25	280	22	18	13	403	81	484	0	0	0	0	6	2	0	0	4	4	10	6	16	
教員	4	2	66	120	8	2	0	0	0	1	78	125	203	0	1	29	11	5	2	3	1	0	0	37	15	52	
公務員	39	26	7	12	5	3	14	1	13	4	78	46	124	6	3	0	6	8	1	0	0	2	1	16	11	27	
農林・水産	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	5	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鉱業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
建設	6	4	0	3	0	1	16	2	0	0	22	10	32	0	0	0	0	8	0	1	1	2	0	11	1	12	
製造	21	24	0	4	5	6	51	17	9	6	86	57	143	0	1	0	0	154	20	5	0	5	6	164	27	191	
業種別	2	1	1	0	0	1	3	1	0	0	6	3	9	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	7	1	8	
電気・ガス・水道	1	10	2	1	2	0	7	2	0	0	12	13	25	0	0	0	0	10	1	0	0	0	0	10	1	11	
運輸・郵便	26	30	10	23	20	7	49	9	4	2	109	71	180	1	0	0	0	48	6	0	0	1	0	50	6	56	
情報通信	17	29	3	7	3	2	4	0	4	1	31	39	70	0	5	0	2	6	2	0	0	0	0	6	9	15	
卸・小売	14	22	1	9	3	1	0	0	2	2	20	34	54	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	
金融・保険	1	3	0	4	0	0	1	0	1	0	1	9	10	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2	
不動産	21	39	18	14	10	9	16	3	7	11	72	76	148	1	4	1	2	24	11	7	0	2	3	35	20	55	
サービス	1	5	0	6	0	0	2	0	0	2	3	13	16	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	4	
医療・福祉	0	1	0	0	5	0	2	0	0	0	7	1	8	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0	3	
その他	160	202	131	218	136	57	444	58	62	45	933	580	1513	8	15	32	23	280	46	18	2	16	14	354	100	454	
小計	14	11	10	14	13	3	10	6	7	2	54	36	90	3	5	2	2	14	1	3	0	3	1	25	9	34	
上記以外	174	213	141	232	149	60	454	64	69	47	987	616	1603	11	20	34	25	294	47	21	2	19	15	379	109	488	
合計																											

注：※印「大学院研究科修了者など」には、博士後期課程単位取得満期退学者を含む。

就職者数上位の企業等 (2019年3月卒業生・修了者)

※()は就職者数

茨城県小学校教員(74) / 茨城県中学校教員(54) / 茨城県高等学校教員(36) / 茨城県庁(18) / JAグループ(17) / 日立オートモティブシステムズ株式会社(15) / 東日本旅客鉄道株式会社(13) / 株式会社常陽銀行(12) / 水戸市役所(9) / 茨城県特別支援学校教員(9) / 株式会社日立パワーソリューションズ(9) / 茨城県警察(8) / 株式会社カスミ(8) / 茨城県義務教育学校教員(7) / 福島県小学校教員(6) / 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(6) / 株式会社茨城計算センター(6) / 株式会社東日本技術研究所(6) / デジタルサーブ株式会社(6) / 国立大学法人茨城大学(6) / 日立市役所(5) / 千葉県小学校教員(5) / 本田技研工業株式会社(5) / いすゞ自動車株式会社(5) / 株式会社日立ハイテクノロジーズ(5) / つくば市役所(4) / 取手市役所(4) / 千葉県中学校教員(4) / 中央労働金庫(4) / 東海旅客鉄道株式会社(4) / 東京エレクトロン株式会社(4) / 日本工営株式会社(4) / スズキ株式会社(4) / セイコーエプソン株式会社(4) / スミセイ情報システム株式会社(4) / 昭和産業株式会社(4) / 株式会社旭物産(4)

check!



キャリアセンター

学生の将来を見据えて、インターンシップや就職支援など、幅広いキャリア支援を行っています。就職相談や求人情報、インターンシップの受付などの窓口です。

(日立キャンパス、阿見キャンパスは学務グループがキャリア相談の窓口となります)

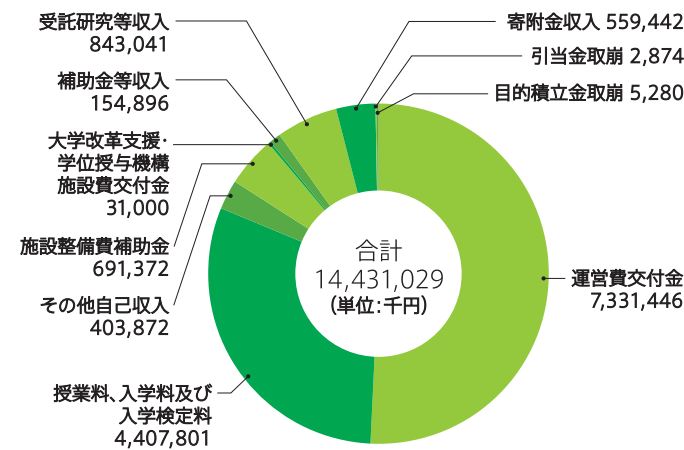
- TEL/029-228-8797 ●WEB/http://career.admb.ibaraki.ac.jp/
- MAP/P.21 水戸キャンパス 共通教育棟

財務・ガバナンス

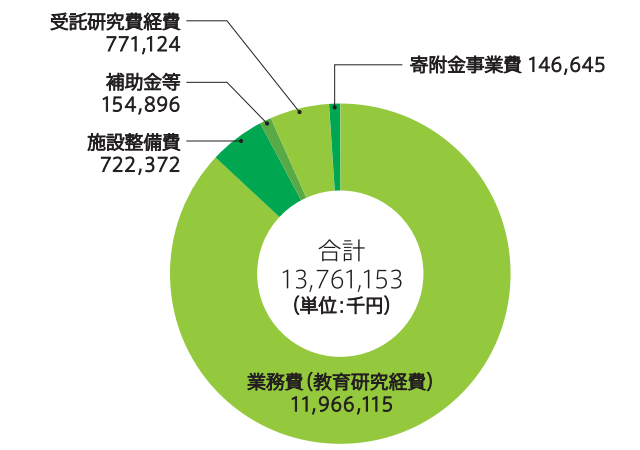
財務改善や教職員が輝く職場づくりを通じて、持続可能な大学運営をめざします。

財務状況 — 外部資金獲得の取り組みを強化し、自律的な財政運営を図る

●収入(2018年度)

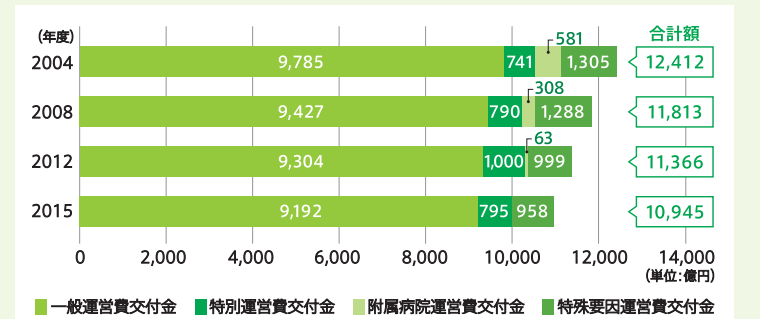


●支出(2018年度)



注：千円未満切り捨てのため、合計が一致しない場合があります。

国から国立大学へ措置される運営費交付金等の予算について、教育・研究活動の基盤となる基幹経費の額は2004年の国立大学法人化以降、大きく減少しています(右図は全国の国立大学法人運営費交付金等の予算の推移)。本学においても、業務効率を高めるとともに、科研費等の研究助成の獲得や共同研究の推進、寄附の拡充など外部資金獲得の取り組みを強化し、自律的な財政運営を図っています。



ダイバーシティの実現と誰もが働きやすい環境づくり

茨城大学では女性教員の増加やワーク・ライフ・バランスの充実などダイバーシティ環境の整備を目標に掲げ、取り組みを進めています。具体的には、出産・育児・介護等のライフイベント中の研究者への研究支援員の配置、入試のために出勤する教職員を対象とした臨時託児所の開設のほか、次世代育成として理系女子学生のキャリア形成支援などを行っています。

check!



ダイバーシティ推進室

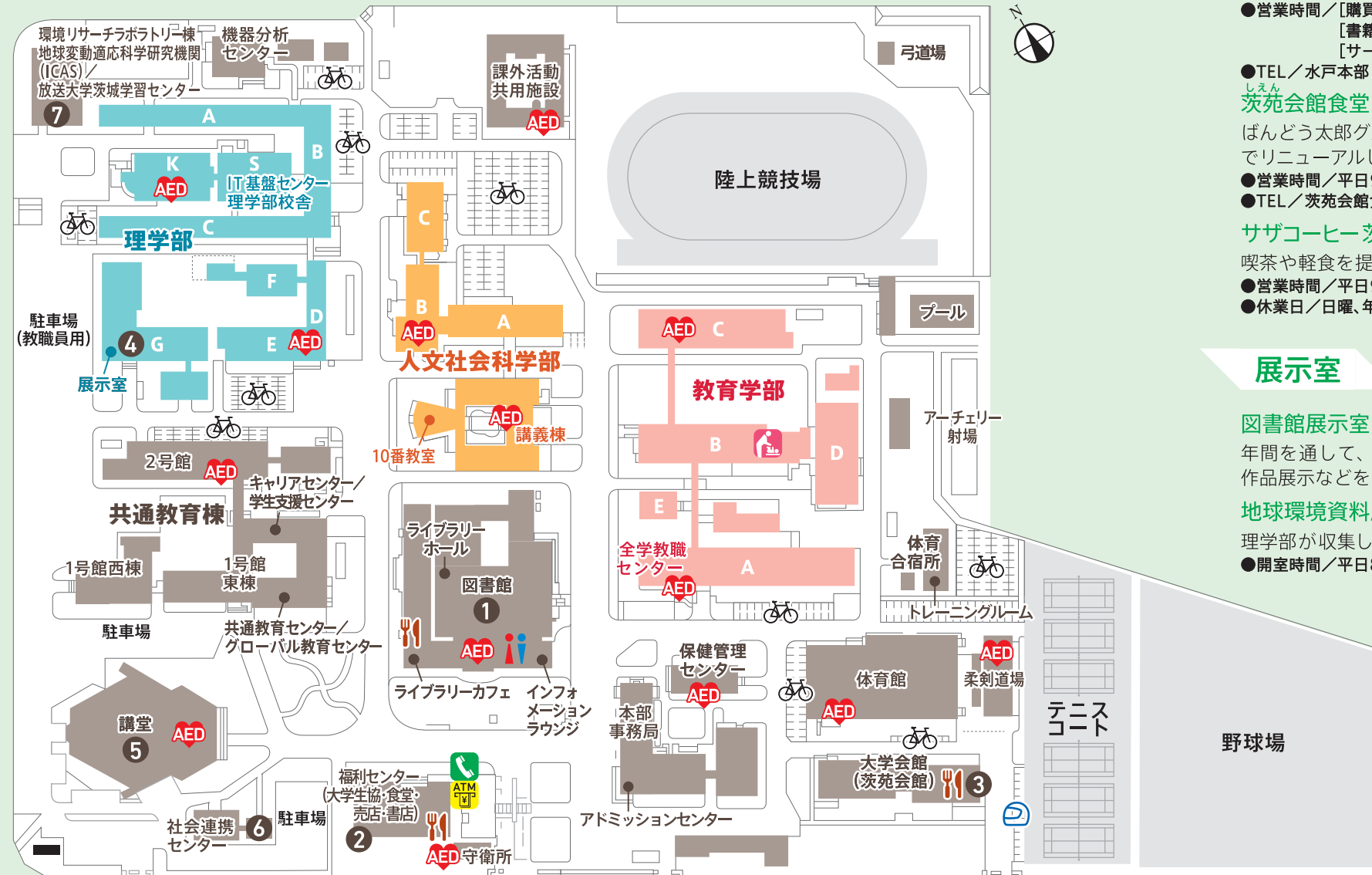
2016年4月に男女共同参画推進室を改称して開設されたダイバーシティ推進室では、お互いの個性が尊重されて、学生・教職員それぞれの能力が十分に活かされる、ダイバーシティ環境が整った大学づくりを進めています。

- TEL/029-228-8239 ●WEB/https://www.ibaraki.ac.jp/diversity/

キャンパスマップ 水戸キャンパス

●住所/茨城県水戸市文京2-1-1
●TEL / 029-228-8111(代)

☎ 公衆電話 AED 駐輪場 バイク駐輪場 🍴 カフェ・食堂 🏧 銀行ATM 🍼 ベビーシート



▲ 来客用駐車場入口

▲ 正門

カフェ・食堂・売店

大学生協食堂(福利センター1階・2階) ②

幅広いメニューで栄養バランスのとれた食事を提供しています。
●営業時間/[1階]平日10:00~19:20、土曜11:00~13:30、日曜休業
[2階]平日11:00~13:30、土日休業

大学生協購買・書籍等(福利センター1階・2階) ②

書籍・食品・旅行・パソコンなどを取り扱っています。
●営業時間/[購買]平日8:30~18:15、土曜10:00~14:00、日曜休業
[書籍]平日10:00~17:00、土日休業
[サービス]平日10:00~18:00、土日休業
●TEL/水戸本部 029-225-3384

茨苑会館食堂(大学会館1階) ③

ばんどう太郎グループが運営。2016年には学生との共同企画でリニューアルし、学生考案のメニューも提供しています。
●営業時間/平日9:00~16:00、土日休業
●TEL/茨苑会館食堂 029-232-3456

サザコーヒー茨城大学ライブラリーカフェ店(図書館1階) ①

喫茶や軽食を提供しています。テイクアウトも可。
●営業時間/平日9:00~18:00、土曜10:00~17:00
●休業日/日曜、年末年始、創立記念日(5/31)、お盆休み



サザコーヒー ライブラリーカフェ



大学生協食堂

茨苑会館食堂

展示室

図書館展示室(図書館1階) ①

年間を通して、本学所蔵資料の企画展示や、教員・学生の研究成果発表、作品展示などを行っています。開館時間は展示により異なります。入場無料。

地球環境資料展示室(理学部G棟1階) ④

理学部が収集した化石や鉱石などの資料を展示しています。
●開室時間/平日8:40~18:00、入場無料



図書館展示室

ホール等

ライブラリーホール(図書館3階) ①



講堂 ⑤



社会連携センター ⑥

地域・社会との連携の窓口です。



地球変動適応科学研究機関(ICAS)/放送大学茨城学習センター ⑦



図書館(本館) ①

茨城大学図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、2階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。地域の方々と学生がともに学ぶ無料の講座「土曜アカデミー」も開催しています。

●WEB / <http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
●TEL / 029-228-8076(本館サービスグループ)

●開館時間

開講期間中	平日	8:30 ~ 21:45
	土・日	11:00 ~ 19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30 ~ 17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29 ~ 1/3)		休館



●電車でお越しの方
JR水戸駅北口のバスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗り、「茨大前」で下車(約25分)。

●車でお越しの方
常磐自動車道水戸ICより国道50号線を水戸駅方面に進み、新原三差路交差点を県道171号線へ。直進し、袴塚1丁目交差点を左折後、袴塚3丁目交差点を右折。一本目の道を左折すると右手に正門が見えます。
※お車の方は守衛所で入構許可証を受け取り、駐車場の案内を受けてください。



来客用駐車場

キャンパスマップ 日立キャンパス

●住所／茨城県日立市中成沢町 4-12-1
●TEL / 0294-38-5004(代)

研究・産学官連携機構(N5棟)①

企業との共同研究や受託研究の推進拠点です。技術相談や研究内容に関するご質問など、お気軽にお問い合わせください。

研究・産学官連携機構 日立オフィス
●TEL/0294-38-5005
●FAX/0294-38-5240
●E-mail/ccrd-iu@ml.ibaraki.ac.jp



- 機械システム工学科 : W1、W2、W4、W5、E2、E5
- 電気電子システム工学科 : E3、E5、E6
- 物質科学工学科 : N1、N2、N6、W3
- 情報工学科 : S1
- 都市システム工学科 : S2、S3

小平記念ホール(N4棟)②

日立製作所より資金提供を受けて1953(昭和28)年に建立。ホールの名前は日立製作所創業者の小平浪平氏に由来しています。現在は学内・学外を問わず講演会や式典などの会場として活用されています。



大学生協(E7棟)③

●営業時間／
[購買書籍]平日9:30~19:20、土日休業
[食堂]平日10:00~19:20、土日休業
●TEL/購買書籍 0294-37-4231
食堂 0294-37-4092



ものづくり教育研究 支援ラボ(S5棟)④

学生や教員の各種製作などの相談を受け付けているほか、地域の子供たち向けのワークショップなども開催しています。



図書館(工学部分館)⑤

図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の出借を希望する方は、1階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。

●WEB / <http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
●TEL / 0294-38-5012
(工学部分館サービスグループ)



●開館時間

開講期間中	平日	8:30 ~ 21:45
	土・日	11:00 ~ 19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30 ~ 17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29 ~ 1/3)		休館



●電車でお越しの方
JR日立駅(中央口)から日立電鉄バス、中央線経由「平和台公園行」又は「多賀駅行」に乗車、「茨大前」で下車。JR常陸多賀駅から日立電鉄バス、中央線経由「日立駅行3」又は「日立駅行4」に乗車、「茨大前」下車。いずれもバス乗車時間は約10分。

●車でお越しの方
常磐自動車道でお越しの場合は、日立中央ICのご利用が便利です。国道6号線を水戸方面に進むと左折の案内表示板があります。正門の守衛所で入構カードを受け取り、駐車場をご利用ください。

多賀工業会館⑥

茨城大学工学部、茨城大学大学院理工学研究科(工学系)ならびに前身組織である多賀高等工業学校等の同窓会「多賀工業会」の事務局です。談話スペースも用意しています。



東海サテライトキャンパス

世界的な研究施設 J-PARC (大強度陽子加速器施設) に隣接する茨城大学フロンティア応用原子科学研究センターを核とした、新たな教育・研究拠点として2017年に開設。大学院理工学研究科量子線科学専攻の教育・研究活動を展開しています。年1回実施している一般公開には、東海村在住の小中学生などが家族とともに訪れ、最新の研究に触れています。

- 住所/茨城県那珂郡東海村白方162番地1
いばらき量子ビーム研究センター内
- TEL/029-287-7871



教育学部附属学校園

茨城大学には、教育学部附属の幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校が設置されています。各学校・園では、教員免許の取得をめざす学生を受け入れて教育実習を行うなど、教育学部や教職大学院の教員養成に貢献しています。さらに、大学の教員と協力し、教育に関する理論的・実践的な研究や積極的な働き方改革の取り組みを進め、その成果を他の公立学校などにも広く発信するなど、地域の教育力向上に大きな役割を果たしています。



附属幼稚園
茨城県水戸市三の丸2-6-8
TEL/029-224-3708



附属小学校
茨城県水戸市三の丸2-6-8
TEL/029-221-2043

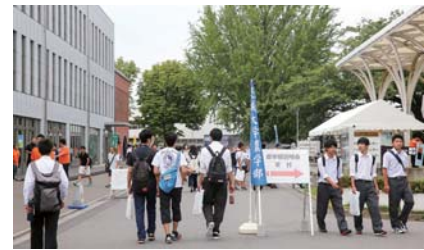


附属中学校
茨城県水戸市文京1-3-32
TEL/029-221-3379



附属特別支援学校
茨城県ひたちなか市津田1955
TEL/029-274-6711

地域の方にご参加いただけるイベント



オープンキャンパス
キャンパスを1日開放し、研究室訪問や模擬授業などにより学生生活を体験できるイベント。水戸・日立・阿見の各キャンパスで毎年7～8月の時期に実施しています。

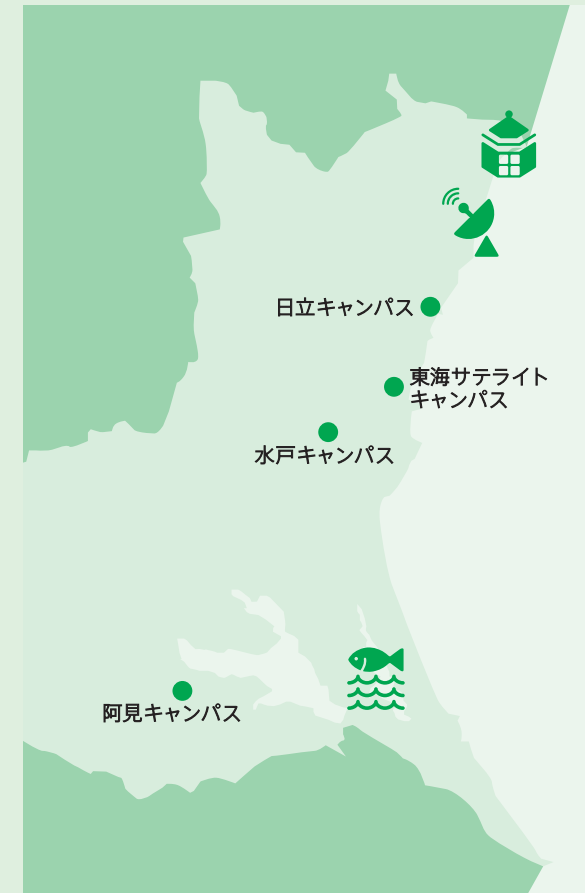


学園祭
水戸の茨苑祭、日立のこうがく祭、阿見の畝耕祭という各キャンパスの学園祭には、地域の方々も毎年多くご来場いただいています。



土曜アカデミー
茨城大学図書館が開催している、地域住民と学生と一緒に学ぶ無料イベントです。

茨城県内の茨城大学関連施設のご案内



茨城大学五浦美術文化研究所 —岡倉天心の思想をいまに—



岡倉天心は北茨城五浦の地を気に入り、1906年に日本美術院を移し、横山大観、菱田春草、下村観山、木村武山らとともにこの地で過ごしました。研究所は天心遺跡の管理・公開を行うとともに、その功績をたえ日本の近代美術や内外の文化・歴史研究に取り組んでいます。六角堂は2011年3月11日の東日本大震災がもたらした大津波で基部以外すべて流出してしまいましたが、多くの方々の支援により復興。敷地内の天心記念館では、平柳田中作の「五浦釣人」など貴重な作品を展示しています。

- アクセス/JR常磐線・大津港駅から徒歩で約10分
- 入場料/400円(中学生まで無料・団体割引等あり)
- 休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/29～1/3)
- 住所/茨城県北茨城市大津町五浦727-2
- TEL/0293-46-0766

茨城大学理学部附属 宇宙科学教育研究センター —宇宙の成り立ちを探る巨大アンテナ—



日立市と高萩市にまたがった小高い公園内にある、国立天文台の口径32mの宇宙電波望遠鏡2基を使って、宇宙からやってくる電波をとらえています。

- アクセス/JR常磐線・高萩駅から徒歩10分
「明秀学園高萩キャンパス前」から徒歩10分
- 入場料(宇宙電波館)/無料(平日10時～12時、13時～17時)
- 休館日/土・日曜日、年末年始(12/29～1/3)
- 住所/茨城県高萩市石滝627-1
- TEL/0293-24-9516

茨城大学広域水圏環境科学 教育研究センター —全国随一の臨湖教育施設—



北浦を臨む場所に建つセンターは、全国随一の臨湖共同教育施設としてさまざまな地域の学生などの利用を受け入れ、生態系の観察や水質調査を体験できるプログラムを提供しています。

- アクセス/成田線・延方駅から徒歩10分、
大洗鹿島線・鹿島神宮駅から徒歩17分
- 住所/茨城県潮来市大生1375
- TEL/0299-95-9650

キャンパススケジュール

茨城大学の1年間



茨城大学基金 Next Step

ご寄附募集のご案内

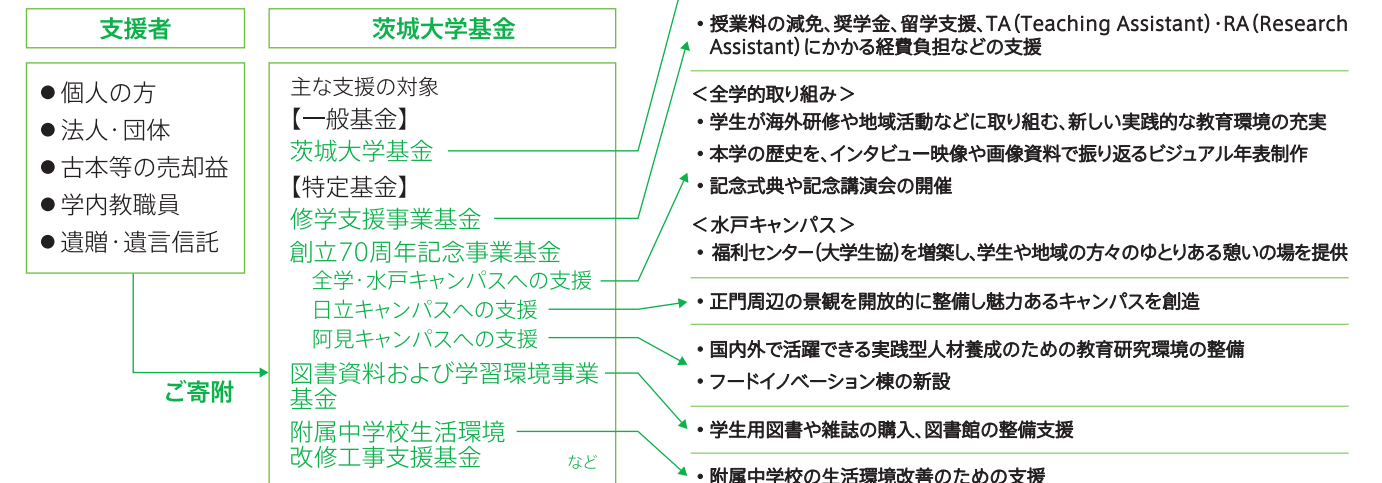
茨城大学では、大学を卒業された皆さま、地域社会や企業などの皆さま、同窓生の皆さまなどから広くご支援をいただく仕組みとして、「茨城大学基金 Next Step」を2015年に創設しました。本冊子でご紹介したように、本学では地域と世界で活躍する人材を育てるための大学改革に取り組んでおり、グローバルに学ぶ交換留学や短期研修も拡充し、学生の成長を支援する環境づくりを進めるとともに、地域に根ざし、持続可能な地域づくりに貢献しています。このような取り組みを一層進める上では、財政基盤の充実が不可欠です。社会の期待に応える大学として成長したいという本学の志をご理解いただき、さらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

寄附の種類

個人寄附	法人・団体寄附	古本等の売却による寄附
個人の方を対象に1,000円から任意の金額でご寄附いただけます。	法人や団体、企業を対象に10,000円から任意の金額でご寄附いただけます。	ご不要になった古本やCD・DVD、ゲームソフトなどをVALUE BOOKSで買い取り、その買い取り額をご寄附となります。

寄附の使途・支援事業

法人全体で寄附金を管理し、スケールメリットを活かした運用を行います。



寄附の申し込み

WEBフォームから	申込書から
茨城大学基金のWEBサイトにアクセスし、お手続きをお願いいたします。クレジットカード決済、銀行振込決済(窓口・インターネットバンキング・ATM)、コンビニ決済(払込票)の払込方法から選び、ご寄附いただけます。 ※郵便局での払い込みはできません。 https://www.ibaraki.ac.jp/fund/	寄附申込書に必要な事項をご記入いただき、郵送またはFAXにて、茨城大学基金・同窓会課までお送りください。寄附申込書は基金のWEBサイトでダウンロードいただくか、茨城大学基金・同窓会課までお問い合わせください。申込書確認後、コンビニ決済用の振込票をお送りいたします。30万円以上のご寄附や銀行振込をご希望の方には、別途ご案内をいたします。

※ご入金確認後、受領証明書を送付いたします。処理の都合上、1〜2ヶ月程度かかる場合がございますが、ご了承ください。受領証明書は税制上の優遇措置を受けるために必要な書類ですので、大切に保管してください。

茨城大学総務部基金・同窓会課 〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1
 ●TEL/029-228-8781 ●FAX/029-228-8249 ●E-mail/kikin@ml.ibaraki.ac.jp ●WEB/https://www.ibaraki.ac.jp/fund/